

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年 4月 20日現在

研究課題名	チェコスロヴァキアにおける「ネイション」概念の議論とその諸相	
申請者	氏名	所属機関・職
	佐藤ひとみ	東京外国語大学博士後期課程

研究成果の概要

「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究を利用し、次のような研究成果を得た。研究成果を以下に列挙する。

(1) チェコ・ネイションおよびスロヴァキア・ネイションを枠組とする歴史の整理

本研究は1968年に起こったいわゆる「プラハの春」の改革以後、チェコスロヴァキアにおける異論派を含む知識人たちが展開した「ネイション」概念に関する議論を概観することを目的としている。これまで同国家における「ネイション」の問題は、チェコ・ネイションとスロヴァキア・ネイションという枠組に基づき論じられる傾向にあった。その際、体制批判を行った異論派知識人らは、チェコ・ネイションとスロヴァキア・ネイションの歴史的な存在の意味を問うた。この時に依拠された歴史が第一共和国や第二次世界大戦期におけるナチスによる占領期の歴史である。北海道大学には1918年以降のチェコスロヴァキア史に関する二次文献が豊富である。今回の調査では、異論派知識人が論じた歴史論の背景となる歴史文献を用い、博士論文の執筆を進めた。

(2) 国内のエスニック・マイノリティに関する歴史の議論

同国家にはチェコ人、スロヴァキア人以外のエスニック・マイノリティ、すなわちドイツ人やハンガリー人が暮らしていた。それにもかかわらず、社会主義期のチェコスロヴァキアを論じた日本語の研究では、彼らの存在はチェコ人とスロヴァキア人に比べると不可視化される傾向にあった。しかし北海道大学には、社会主義期チェコスロヴァキアにおけるエスニック・マイノリティについての外国語の二次文献が豊富であるため、そこから情報を整理し、異論派の議論を整理し、博士論文の執筆を進めた。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

「チェコ異論派ヤン・テサシュの議論にみるチェコスロヴァキア・ネイション—歴史論と市民社会論から」（査読論文、掲載未定、謝辞掲載予定）

「チェコスロヴァキアという『祖国』」（博士論文、謝辞掲載予定）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。